

. 調査結果

1.身のまわりの環境認識（問1）

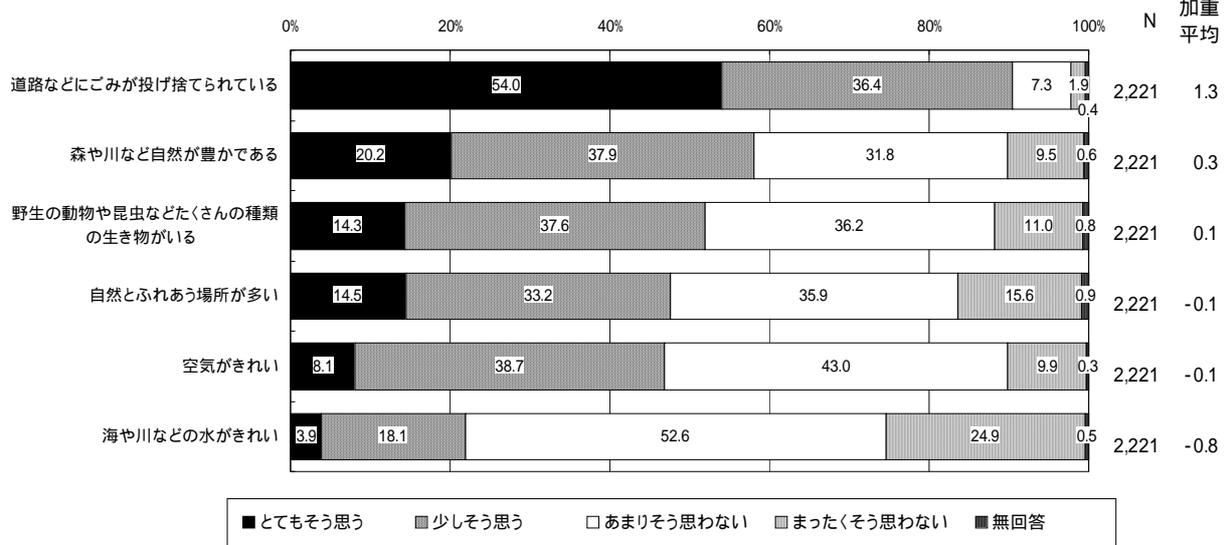
「森や川などの自然が豊かである」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」と認識する子どもは過半数を超えるが、「海や川などの水がきれい」との認識は22%にとどまり、90%が「道路などにごみが投げ捨てられている」と認識している。

身のまわりの環境を肯定的にとらえたものとしては、「森や川など自然が豊かである」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」の回答率（「とてもそう思う」と「少しそう思う」の合計）が58%、52%と5割を超えた。これらに比べると、「自然とふれあう場所が多い」「空気がきれい」はやや肯定率が低く、48%、47%となっている。

一方、環境の悪化を認識するものとしては、「海や川などの水がきれい」は否定率（「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計）が78%、「道路などにごみが投げ捨てられている」は肯定率が90%となっている。

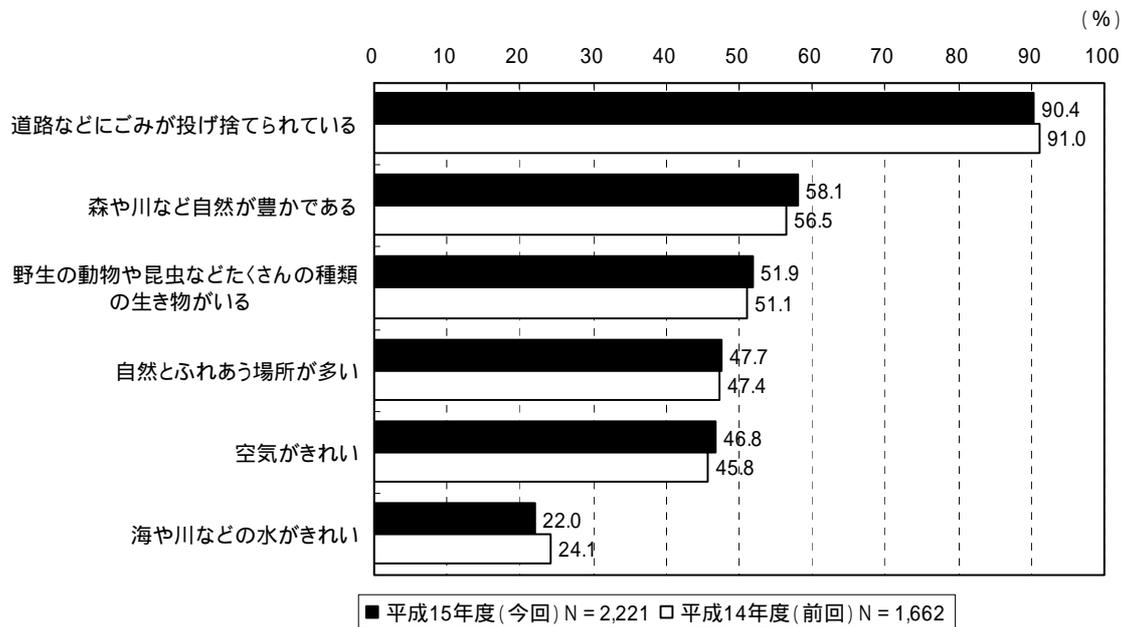
こうした結果は、いずれの環境因子も前回調査とほぼ同傾向となっている。

【図表 1-1】身のまわりの環境認識（全体）



注) この項の加重平均は、「とてもそう思う」に2点、「少しそう思う」に1点、「あまりそう思わない」に-1点、「まったくそう思わない」に-2点を与えて算出した。

【図表 1-2】身のまわりの環境認識（全体、時系列）
（「とてもそう思う」と「少しそう思う」の合計比率）



小学生は中学生よりも「空気がきれい」「森や川など自然が豊かである」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」と認識する傾向が強くみられる。

性別による認識の差はあまりないが、都市規模別にみると、都市規模が小さくなるほど「空気がきれい」「海や川などの水がきれい」「森や川など自然が豊かである」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」「自然とふれあう場所が多い」と認識する率が高く、特に町村部では「空気がきれい」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」「自然とふれあう場所が多い」が65～69%、「森や川など自然が豊かである」が82%と高い。そうした中で「道路などにごみが捨てられている」状態は、都市規模に関わりなく全国に広がっているといえ、どの都市規模でも88～93%を示している。

【図表 1-3】身のまわりの環境認識（学齢別、性別、都市規模別）
 （「とてもそう思う」と「少しそう思う」の合計比率）

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小学生	中学生	男子	女子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
空気がきれい	46.8	49.7	42.9	47.3	46.2	17.3	40.0	55.1	65.1
海や川などの水がきれい	22.0	21.9	22.2	24.6	19.1	3.8	13.7	27.4	40.4
森や川など自然が豊かである	58.0	61.2	53.9	58.2	57.7	31.6	46.6	68.1	82.1
野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる	52.0	55.7	47.1	52.7	51.0	30.4	43.6	61.2	69.2
自然とふれあう場所が多い	47.6	48.7	46.2	47.3	47.7	20.3	35.7	64.4	68.7
道路などにごみが投げ捨てられている	90.4	90.5	90.2	87.8	93.0	89.9	90.7	93.4	88.1

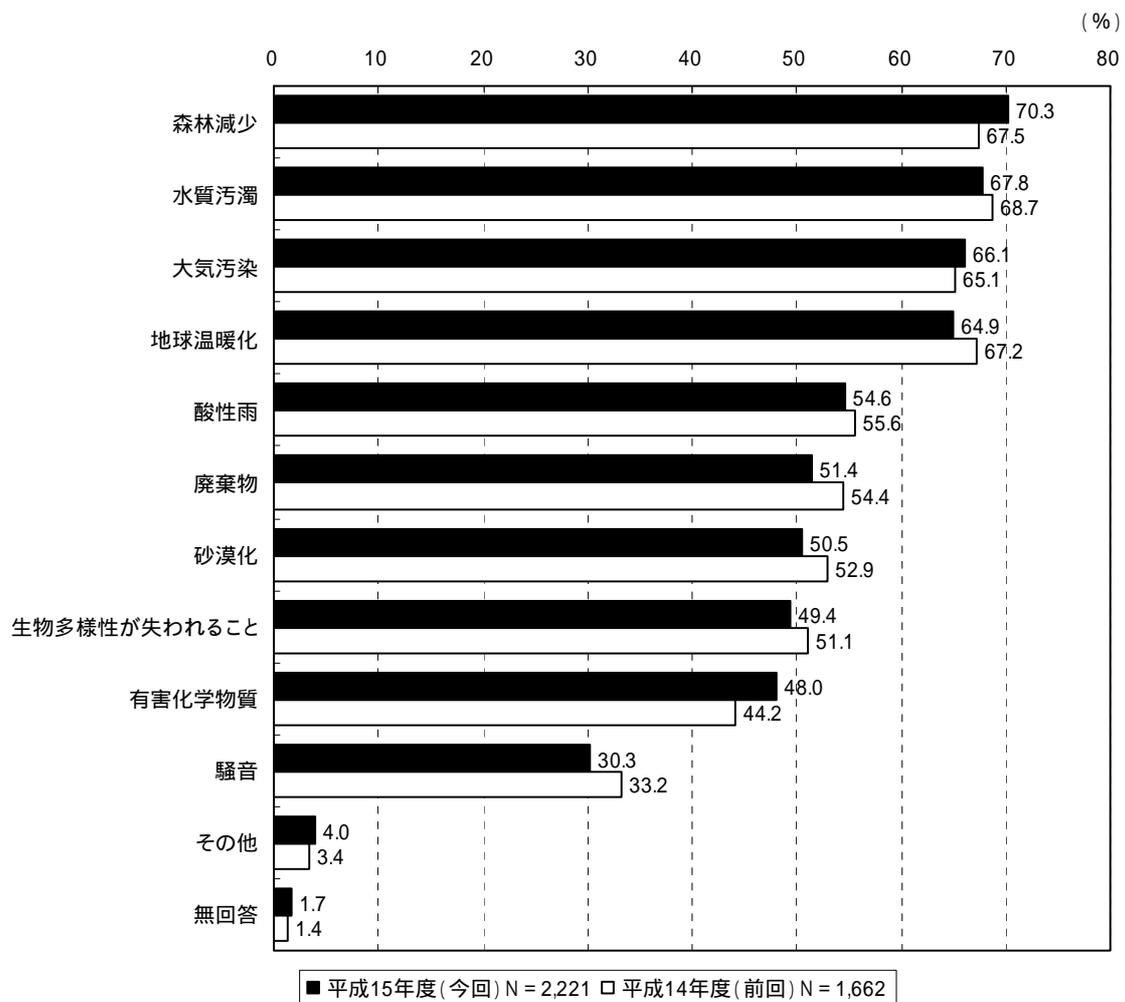
2. 環境問題の関心（問2）

環境問題についての関心領域は幅広く、特に「森林減少」「水質汚濁」「大気汚染」「地球温暖化」に対する関心が高い。

環境問題への関心の有無を尋ねたところ、最も関心が高い項目は「森林減少」(70%)で、以下「水質汚濁」(68%)、「大気汚染」(66%)、「地球温暖化」(65%)と続く。また、これらに加え、「酸性雨」(55%)、「廃棄物」、「砂漠化」(各51%)にも50%以上が関心を示しており、関心領域も幅広いものとなっている。これに対し、「騒音」(30%)に対する関心はやや低くなっている。

また前回調査と比べると「森林減少」(68% → 70%)、「有害化学物質」(44% → 48%)の関心がやや高まる反面、「廃棄物」(54% → 51%)、「騒音」(33% → 30%)の関心がやや低下している。

【図表 2-1】環境問題の関心（複数回答）(全体、時系列)



「地球温暖化」以外はいずれも中学生より小学生の関心が高い。特に大きな差が開いているものは「廃棄物」「砂漠化」「有害化学物質」で小学生の関心度が中学生の関心度を18～22ポイント上回っている。

性別にみると、男子は「生物多様性が失われていること」(53%)、「有害化学物質」(51%)、女子は「廃棄物」(56%)に対する関心がやや高い。都市規模別では10万人未満で「水質汚濁」(74%)、「廃棄物」(58%)、「有害化学物質」(54%)に対する関心が全体に比べやや高くなっている。

【図表 2-2】環境問題の関心(複数回答)(学齢別、性別、都市規模別)

(%)

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
森林減少	70.3	77.7	60.6	69.9	71.1	68.4	72.6	69.4	67.8
水質汚濁	67.8	75.2	58.1	67.4	68.6	62.4	67.4	74.4	66.4
大気汚染	66.1	70.8	59.9	64.9	67.7	68.8	67.6	67.5	61.7
地球温暖化	64.9	63.2	67.2	64.3	65.7	67.9	66.4	61.2	63.5
酸性雨	54.6	61.7	45.2	53.5	56.1	51.5	56.3	50.9	55.4
廃棄物	51.4	60.8	38.9	47.4	55.8	40.1	51.3	58.0	51.8
砂漠化	50.5	58.3	40.1	50.6	50.4	46.4	51.9	50.4	49.7
生物多様性が失われること	49.4	56.4	40.2	52.6	46.3	44.7	51.3	47.5	49.4
有害化学物質	48.0	56.1	37.1	51.2	44.8	37.6	49.2	54.4	45.8
騒音	30.3	34.3	25.1	30.8	30.2	29.1	31.7	31.1	27.9
その他	4.0	4.5	3.3	4.9	2.9	4.6	3.9	3.4	4.3
無回答	1.7	0.8	2.9	2.1	1.2	3.8	1.8	-	1.9

3. 環境問題に対する考え方（問3）

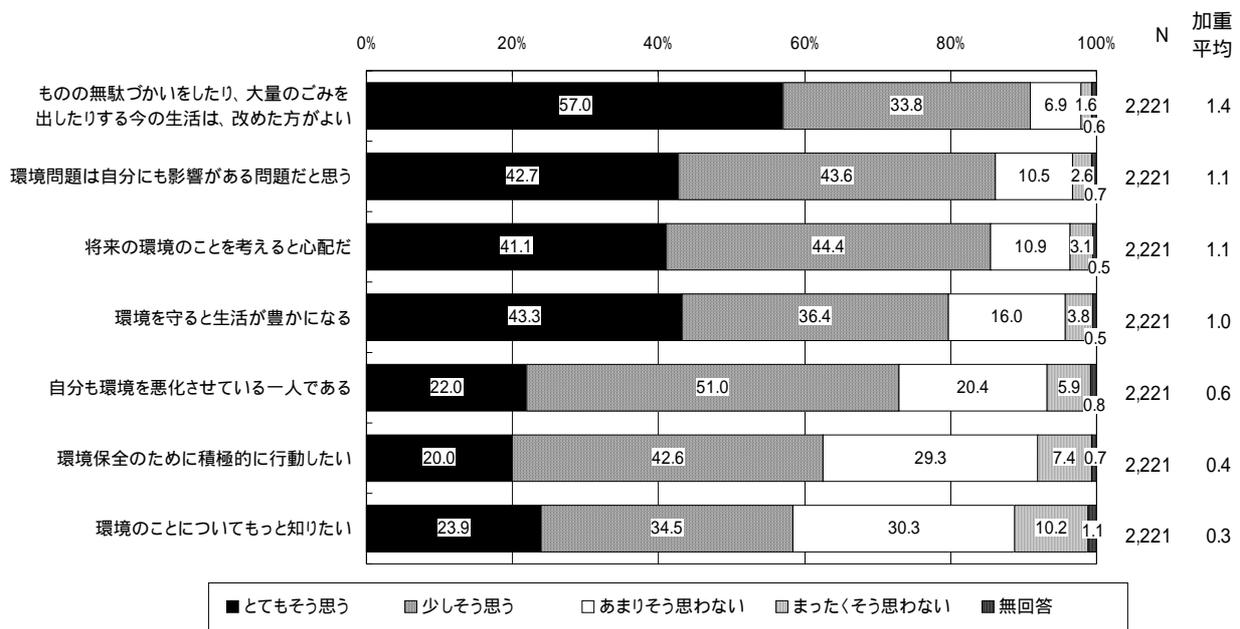
「ものの無駄づかいをしたり、大量のごみを出したりする今の生活は、改めた方がよい」「環境問題は自分にも影響がある問題だと思う」「将来の環境のことを考えると心配だ」「環境を守ると生活が豊かになる」という考え方が広く浸透している。しかし、「環境保全のために積極的に行動したい」「環境のことについてもっと知りたい」といった自分自身の生活や行動に関わる意識はやや低い。

環境問題に対する考え方では、「ものの無駄づかいをしたり、大量のごみを出したりする今の生活は、改めた方がよい」「環境問題は自分にも影響がある問題だと思う」「将来の環境のことを考えると心配だ」の肯定率（「とてもそう思う」と「少しそう思う」の合計）が9割前後にのぼっており、これらの考え方は子どもの中で深く浸透しているといえる。

これらに比べると、自分自身の生活や行動に関する項目の肯定率はやや低く、「自分も環境を悪化させている一人である」（73%）「環境保全のために積極的に行動したい」（63%）「環境のことについてもっと知りたい」（58%）となっている。

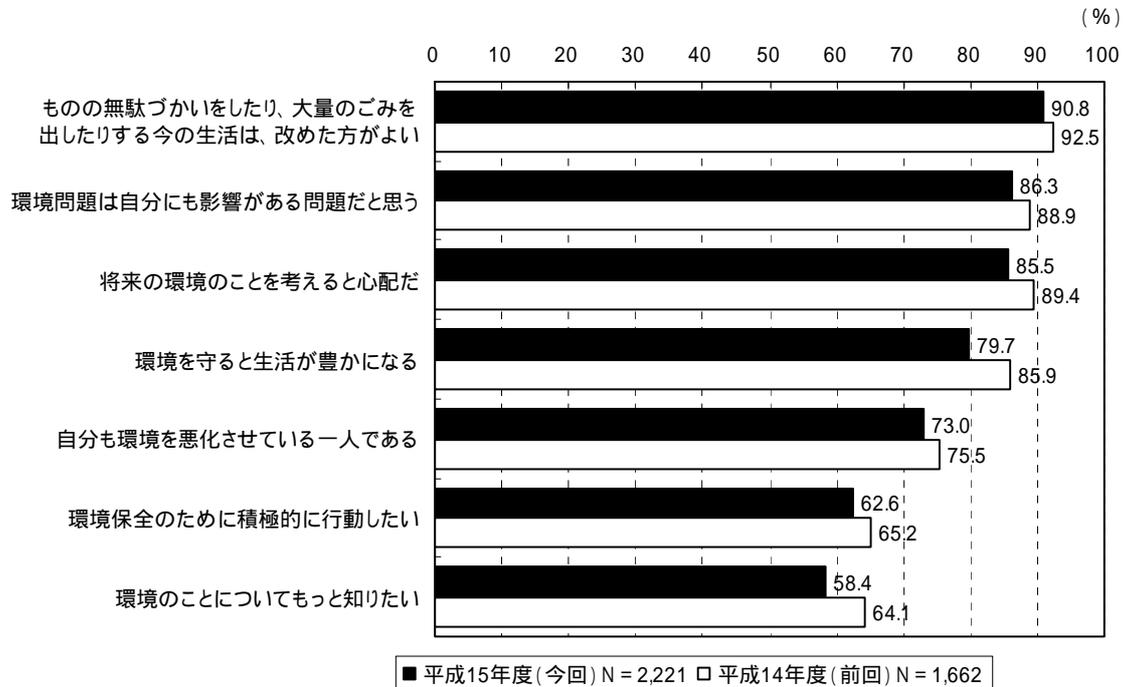
前回調査に比べると、環境問題に対する考え方や意向が、全般的にやや希薄化する傾向にある。そうした中で、特に「環境を守ると生活が豊かになる」（86% 80%）という考え方や「環境のことについてもっと知りたい」（64% 58%）という意向がやや大きく低下している。

【図表 3-1】環境問題に対する考え方（全体）



注) この項の加重平均は、「とてもそう思う」に2点、「少しそう思う」に1点、「あまりそう思わない」に-1点、「まったくそう思わない」に-2点を与えて算出した。

【図表 3-2】環境問題に対する考え方（全体、時系列）
（「とてもそう思う」「少しそう思う」比率の合計）



小学生は中学生よりも「環境のことをもっと知りたい」(67%)、「環境保全のために積極的に行動したい」(71%)、「環境を守ると生活が豊かになる」(86%)という意識が強い。

性別にみると、女子の意識はどの項目も男子を上回り、特に「自分も環境を悪化させている一人である」、「環境のことについてもっと知りたい」、「環境保全のために積極的に行動したい」で男子との差が大きく、男子を8～11ポイント上回っている。

都市規模別では、10万人以上で「環境のことについてもっと知りたい」(63%)、10万人未満で「自分も環境を悪化させている一人である」(78%)という意識が全体に比べやや高いという特徴がみられる。

【図表 3-3】環境問題に対する考え方（学齢別、性別、都市規模別）
（「とてもそう思う」と「少しそう思う」の合計比率）

(%)

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
将来の環境のことを考えると心配だ	85.5	86.7	83.9	82.3	88.7	88.2	85.8	83.9	85.0
環境問題は自分にも影響がある問題だと思 う	86.3	86.7	85.7	83.4	89.1	86.5	86.7	85.8	85.7
ものの無駄づかいをしたり、大量のごみを出 したりする今の生活は、改めた方がよい	90.8	91.9	89.4	87.9	93.8	88.2	91.4	90.5	91.1
自分も環境を悪化させている一人である	73.0	73.0	72.9	69.2	76.9	72.6	72.8	78.1	70.2
環境のことについてもっと知りたい	58.4	67.4	46.5	53.7	63.3	53.2	62.7	54.1	55.9
環境保全のために積極的に行動したい	62.6	71.1	51.4	57.2	68.1	59.5	65.7	57.5	61.7
環境を守ると生活が豊かになる	79.7	86.2	71.1	77.2	82.1	73.4	80.8	79.4	80.4

4 . 環境保全行動の実態と今後の意向

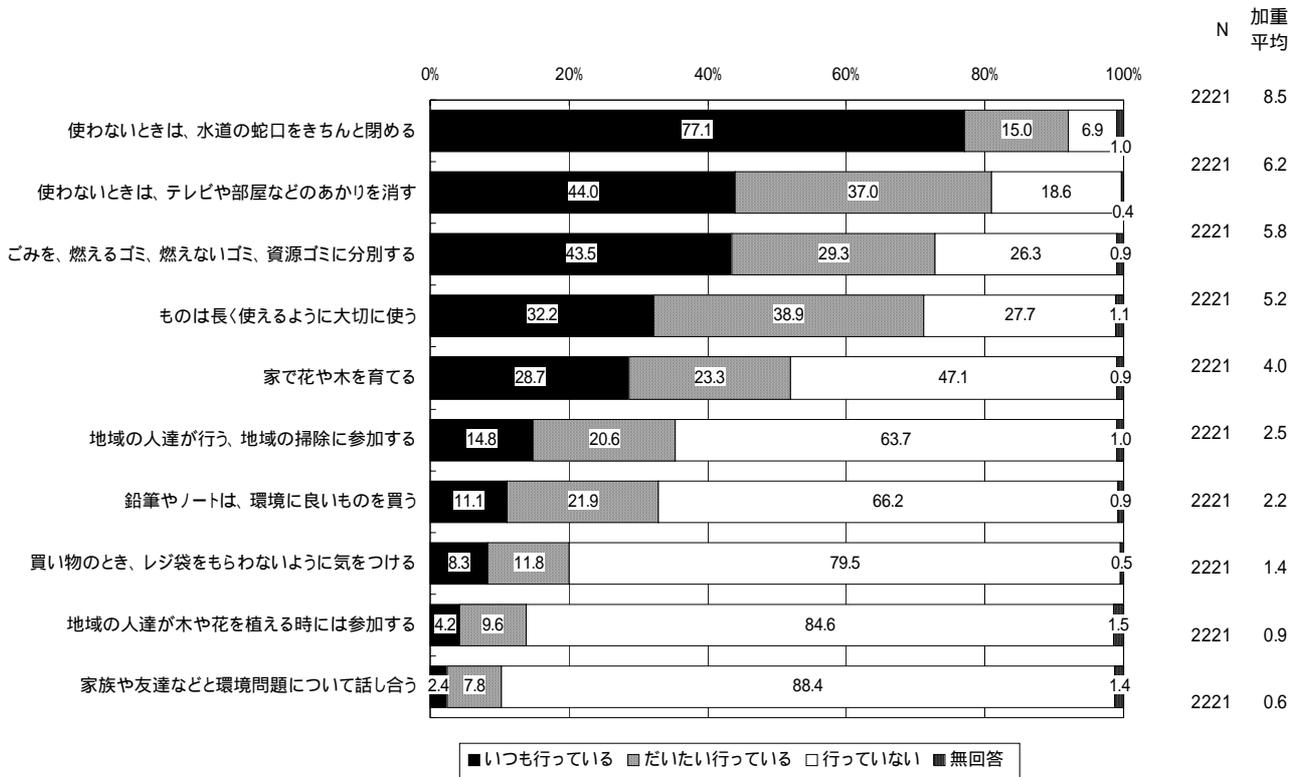
4 - 1 環境保全行動（問4）

「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」「ものは長く使えるように大切に使う」「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミにきちんと分別する」という行動はほぼ定着し、「家で花や木を育てる」「鉛筆やノートは、環境に良いものを使う」「地域の人たちが行く、地域の掃除に参加する」の実施率も高い。しかし、「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」「地域の人たちが木や花を植える時には参加する」「家族や友達などと環境問題について話し合う」の実施率は30%台にとどまった。

日頃の生活における環境保全行動では、

- 「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」
 - 「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」
 - 「ものは長く使えるように大切に使う」
 - 「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミにきちんと分別する」
- という行動がほぼ定着しており、これらの実施率（「いつも行っている」「だいたい行っている」「ときどき行っている」の合計）は85～96%に達している。また、
- 「家で花や木を育てる」
 - 「鉛筆やノートは、環境に良いものを使う」
 - 「地域の人たちが行く、地域の掃除に参加する」
- の実施率も57～70%と比較的高い。しかし、
- 「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」
 - 「地域の人たちが木や花を植える時には参加する」
 - 「家族や友達などと環境問題について話し合う」
- の実施率は低く、30～37%にとどまっている。

【図表 4-1】環境保全行動（全体）



注1) この項の加重平均は、「いつも行っている」に10点、「だいたい行っている」に5点、「行っていない」に0点を与えて算出した。

注2) 中学生用調査票に誤植があり、小学生と中学生の選択肢名が異なってしまったため、小学生と中学生の回答の分布、昨年との比較等を行った上で、オリジナルを次のような3つのカテゴリーに変更して分析した結果を示した。図表 4-2 についても同様。

小学生オリジナル	1.いつも行っている	2.だいたい行っている	3.ときどき行っている	4.あまり行っていない	5.まったく行っていない
小学生変更後	1.いつも行っている	2.だいたい行っている	3.行っていない		
中学生オリジナル	1.行っている	2.ときどき行っている	3.行っていない	4.あまり行っていない	5.まったく行っていない
中学生変更後	1.いつも行っている	2.だいたい行っている	3.行っていない		

小学生は「ものは長く使えるように大切に使う」(88%)、「鉛筆やノートは、環境に良いものを買う」(61%)、中学生は「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」(42%)、「地域の人たちが木や花を植える時には参加する」(44%)、「家族や友達などと環境問題について話し合う」(32%)の実施率がやや高い。

性別にみると、女子は「家で花や木を育てる」(76%)が男子を大きく上回っている。

都市規模別では、都市規模が小さくなるほど「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」「地域の人たちが行く、地域の掃除に参加する」の実施率が高くなる傾向がみられる。また、政令指定都市で「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」(49%)、10万人未満で「地域の人たちが木や花を植える時には参加する」(39%)の実施率が他の都市規模に比べ高いという特徴がある。

【図表 4-2】環境保全行動（学齢別、性別、都市規模別）
（「いつも行っている」「だいたい行っている」の合計比率）

(%)

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める	77.1	75.7	79.0	74.1	80.1	81.9	76.5	73.4	78.5
使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す	44.0	43.6	43.5	42.4	45.5	52.7	43.9	43.8	40.7
ものは長く使えるように大切に使う	43.5	37.0	53.2	42.0	44.9	40.9	47.8	37.5	41.1
ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミにきちんと分別する	32.2	34.2	29.6	32.9	31.5	30.8	32.0	30.3	34.4
家で花や木を育てる	28.7	28.5	29.0	24.6	32.7	30.0	25.5	34.0	30.2
鉛筆やノートは、環境に良いものを買う	14.8	18.0	10.5	14.7	14.9	7.2	14.3	17.4	16.9
地域の人たちが行く、地域の掃除に参加する	11.1	13.9	7.3	10.9	11.1	8.0	11.1	12.1	11.6
買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける	8.3	10.1	5.9	8.3	8.2	8.0	10.0	6.9	6.3
地域の人たちが木や花を植える時には参加する	4.2	4.8	3.5	4.3	4.0	3.0	3.5	5.3	5.3
家族や友達などと環境問題について話し合う	2.4	2.8	1.9	2.3	2.4	2.1	2.8	2.1	2.0

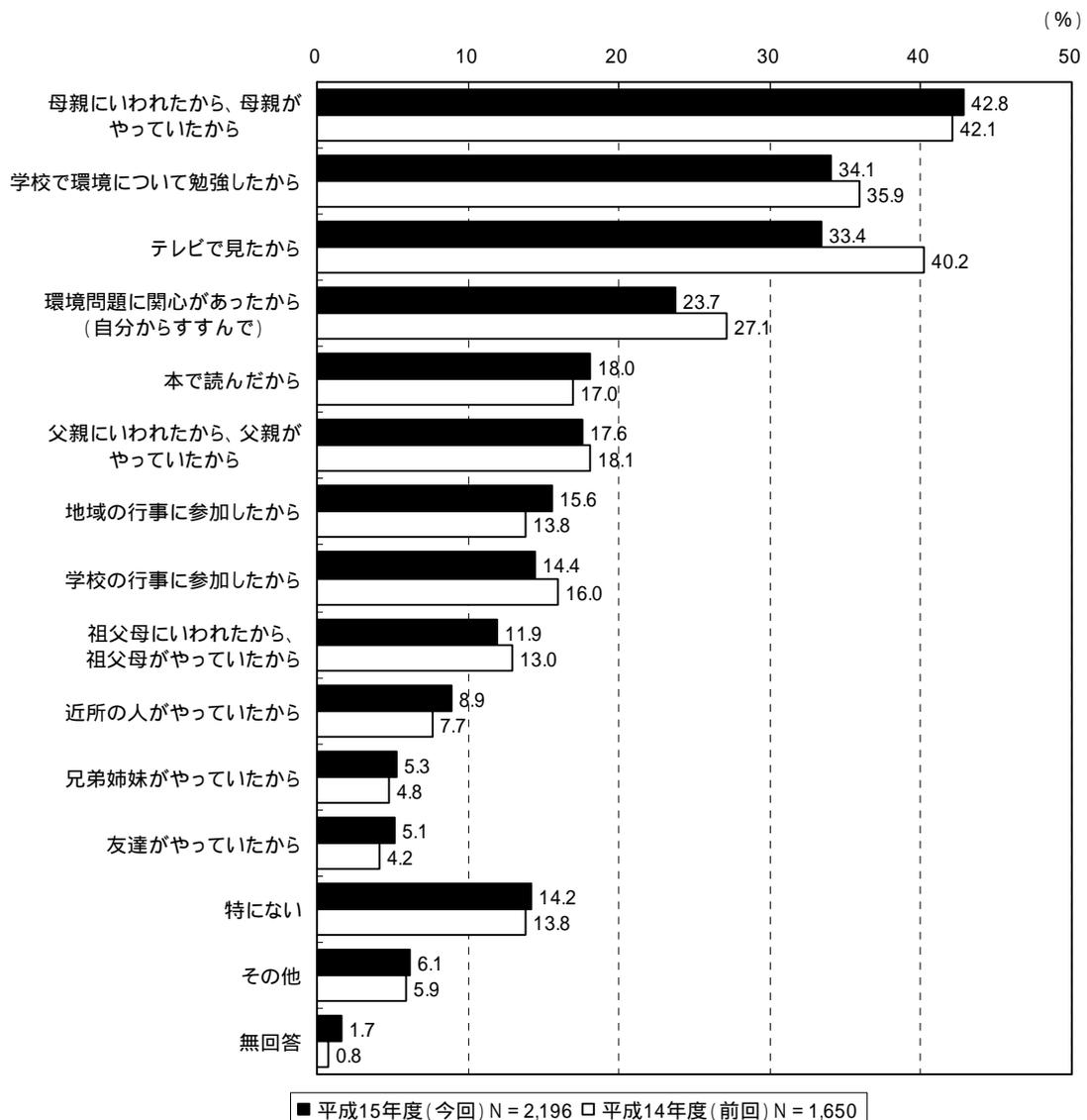
4 - 2 環境保全行動の契機（問5）

環境保全行動は、母親・学校・テレビの影響で始めた子どもが多い。特に小学生で学校、テレビ、女子で母親、学校の影響が強い。

4 - 1の環境保全行動を1つでも行った子どもに対し、行い始めた契機を尋ねたところ、「母親にいわれたから、母親がやっていたから」(43%)、「学校で環境について勉強したから」(34%)、「テレビで見たから」(33%)となっており、母親・学校・テレビの影響が特に強い。この3項目以外では、「環境問題に関心があったから」(24%)が比較的多いが、父親、祖父母、兄弟姉妹といった母親以外の家族や友達、学校や地域の行事などの影響はあまりない。

また前回調査に比べると、「テレビで見たから」という契機が7ポイント低下している。

【図表 4-3】環境保全行動の契機（複数回答）(全体)



小学生は中学生に比べ「学校で環境について勉強したから」(47%)、「テレビで見たから」(39%)、「環境問題に関心があったから」(28%)、「本で読んだから」(25%)、「地域の行事に参加したから」(19%)、「祖父母にいわれたから、祖父母がやっていたから」(16%)、「近所の人やっていたから」(12%)という回答が多くみられる。

性別にみると、女子は男子よりも「母親にいわれたから、母親がやっていたから」(48%)、「学校で環境について勉強したから」(39%)という回答が多いという特徴がある。

都市規模別では、政令指定都市で「学校で環境について勉強したから」(23%)、「テレビで見たから」(26%)、「地域の行事に参加したから」(7%)が他の都市規模に比べ少ない傾向がみられる。

【図表 4-4】環境保全行動の契機（複数回答）(学齢別、性別、都市規模別)

(%)

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,196	1,262	934	1,094	1,091	230	1,008	376	582
母親にいわれたから、母親がやっていたから	42.8	44.7	40.3	37.5	48.4	41.3	46.8	42.6	36.6
学校で環境について勉強したから	34.1	46.8	17.0	29.3	39.2	22.6	37.0	30.6	35.9
テレビで見たから	33.4	39.1	25.7	31.6	35.1	25.7	35.1	34.3	32.8
環境問題に関心があったから(自分からすすんで)	23.7	28.3	17.6	23.5	24.2	20.9	23.9	20.7	26.5
本で読んだから	18.0	24.5	9.3	17.3	18.8	13.0	18.8	21.0	16.7
父親にいわれたから、父親がやっていたから	17.6	19.4	15.1	19.2	16.0	14.8	17.7	20.5	16.7
地域の行事に参加したから	15.6	18.9	11.0	13.5	17.6	7.0	16.2	16.2	17.5
学校の行事に参加したから	14.4	14.7	14.1	14.8	14.1	12.2	15.1	13.3	14.9
祖父母にいわれたから、祖父母がやっていたから	11.9	15.8	6.5	10.4	13.4	6.1	10.4	17.8	12.9
近所の人やっていたから	8.9	11.7	5.1	9.1	8.7	7.0	9.3	8.5	9.3
兄弟姉妹がやっていたから	5.3	6.1	4.3	4.4	6.3	3.9	5.8	5.9	4.8
友達がやっていたから	5.1	6.6	3.2	5.1	5.1	3.0	5.2	5.9	5.5
特にない	14.2	9.0	21.2	18.4	9.9	24.3	12.9	12.2	13.6
その他	6.1	5.4	7.1	5.9	6.3	3.9	6.7	6.9	5.3
無回答	1.7	1.2	2.4	2.3	1.0	3.0	1.3	2.1	1.5

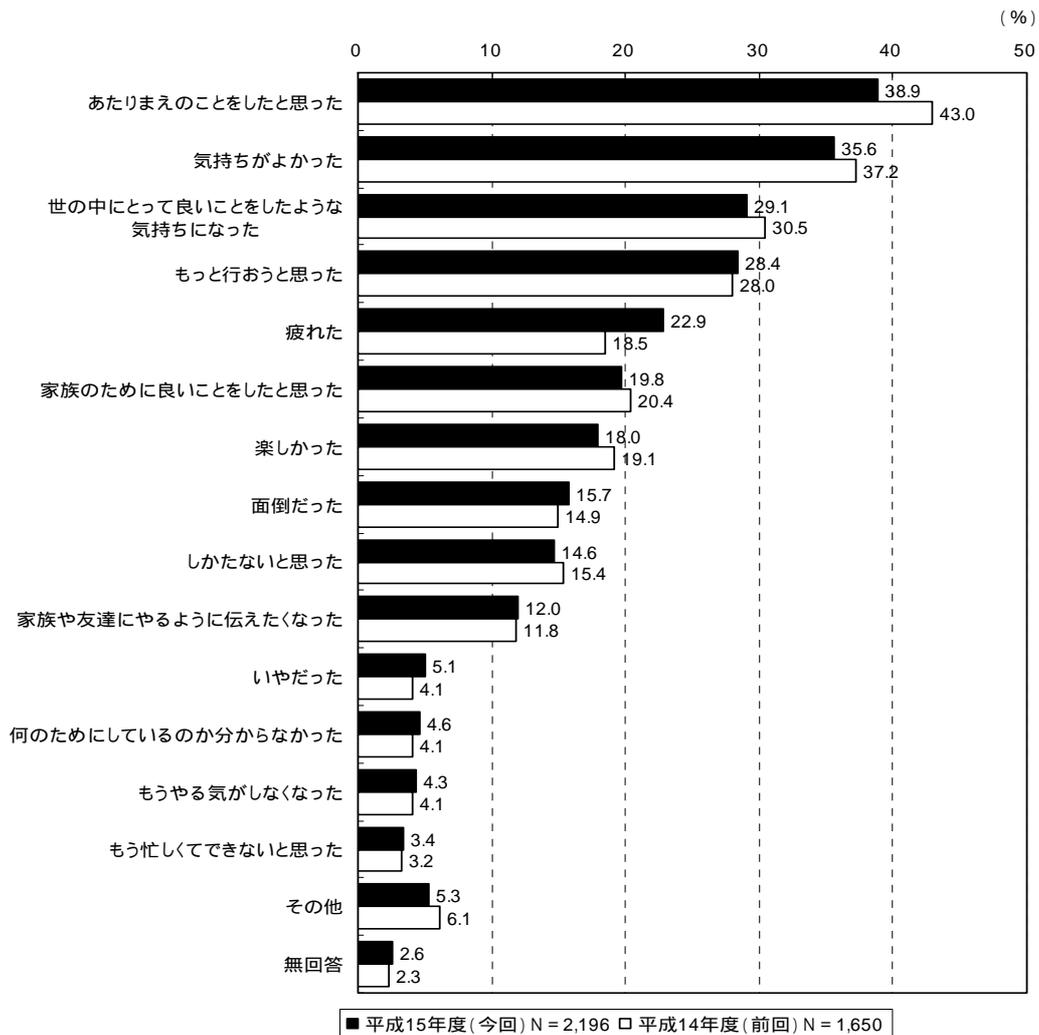
4 - 3 環境保全行動の際の気持ち（問6）

環境保全行動を行った際の気持ちは「あたりまえのことをしたと思った」「気持ちがよかった」「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」「もっと行おうと思った」が上位にあり、環境保全に前向きな姿勢があらわれている。

4 - 1に示した環境保全行動を1つでも行った子どもに対し、行った際の気持ちを尋ねたところ、「あたりまえのことをしたと思った」(39%)、「気持ちがよかった」(36%)が4割近くで上位となった。これらに加え、「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」(29%)、「もっと行おうと思った」(28%)という気持ちも3割弱と強い。また、「疲れた」(23%)、「面倒だった」(16%)、「しかたないと思った」(15%)、「いやだった」「何のためにしているのか分からなかった」(各5%)、「もうやる気がしなくなった」(4%)という気持ちは相対的に低く、環境保全行動に前向きに取り組もうとする姿勢が示されている。

しかし、前回調査に比べ「あたりまえのことをしたと思った」という意識が4ポイント減少し、「疲れた」が4ポイント増加しており、前向きな姿勢にも若干陰りが見え始めている。

【図表 4-5】環境保全行動の際の気持ち（複数回答）(全体)



小学生は、「気持ちがよかった」(44%)、「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」(38%)、「もっと行おうと思った」(各38%)、「家族のために良いことをしたと思った」(28%)、「楽しかった」(24%)、「家族や友達にやるように伝えたくなった」(17%)の比率が高い。これに対し、中学生は、「あたりまえのことをしたと思った」(41%)という意識が強いと同時に「面倒だった」(19%)、「しかたないと思った」(17%)という意識も小学生に比べやや強くなっている。

性別にみると、女子は「気持ちがよかった」(40%)、「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」(33%)、「もっと行おうと思った」(34%)という意識が強いのに対し、男子は「疲れた」(29%)、「面倒だった」(19%)、「しかたないと思った」(18%)という意識がやや強くなっている。

都市規模別では、10万人以上で「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」(32%)、「もっと行おうと思った」(各32%)、町村で「あたりまえのことをしたと思った」(41%)という意識が全体に比べやや高くなっている

【図表 4-6】環境保全行動の際の気持ち（複数回答）（学齢別、性別、都市規模別）
(%)

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,196	1,262	934	1,094	1,091	230	1,008	376	582
あたりまえのことをしたと思った	38.9	37.7	40.5	37.4	40.3	40.0	38.0	37.2	41.1
気持ちがよかった	35.6	44.3	23.9	31.5	39.9	27.4	37.0	35.1	36.8
世の中にとって良いことをしたような気持ちになった	29.1	38.4	16.6	25.7	32.7	19.1	32.2	27.9	28.4
もっと行おうと思った	28.4	37.6	16.0	22.5	34.4	20.0	31.7	26.9	26.8
疲れた	22.9	23.4	22.2	29.0	16.6	24.3	20.5	22.9	26.3
家族のために良いことをしたと思った	19.8	27.8	8.9	17.6	22.1	15.7	20.6	20.7	19.2
楽しかった	18.0	24.4	9.3	15.5	20.6	10.4	19.8	18.1	17.7
面倒だった	15.7	13.4	18.8	19.0	12.3	17.8	15.9	16.2	14.3
しかたないと思った	14.6	12.7	17.2	17.8	11.5	13.0	14.7	15.2	14.8
家族や友達にやるように伝えたくなった	12.0	17.4	4.6	8.6	15.4	9.6	14.2	13.3	8.2
いやだった	5.1	6.0	3.7	8.3	1.8	3.5	4.3	7.4	5.5
何のためにしているのが分からなかった	4.6	5.2	3.9	6.7	2.7	4.8	4.2	5.1	5.2
もうやる気がしなくなった	4.3	5.3	3.0	6.5	2.2	4.8	3.8	5.9	4.1
もう忙しくてできないと思った	3.4	4.1	2.4	4.8	1.9	3.0	3.2	3.7	3.6
その他	5.3	3.3	7.9	5.3	5.1	7.4	5.6	3.5	5.2
無回答	2.6	1.8	3.6	3.1	1.9	4.3	2.0	3.2	2.6

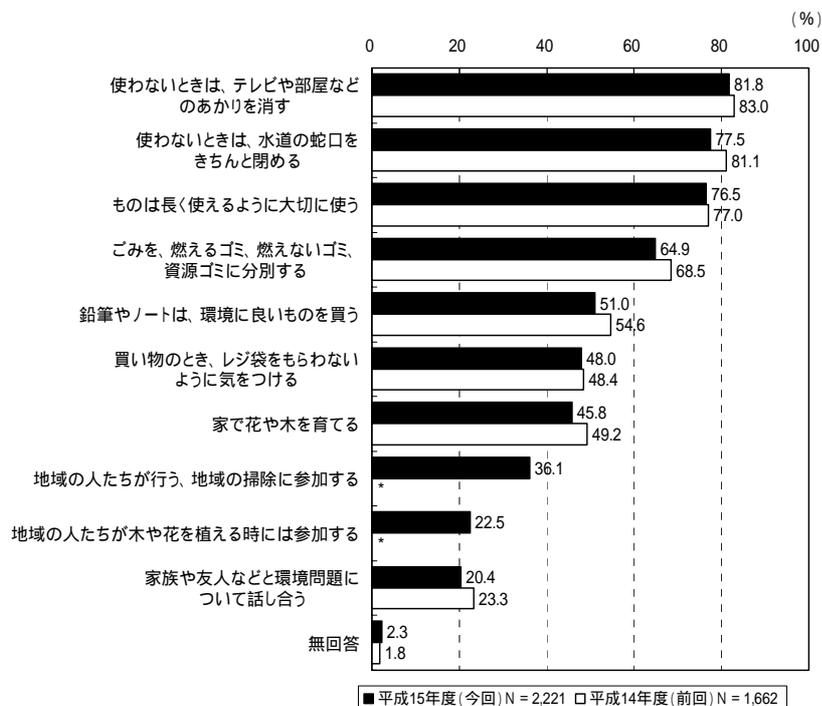
4 - 4 環境保全行動に対する今後の意向（問7）

「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」「ものは長く使えるように大切に使う」の行動意向が全般的に高い。また、都市規模が大きくなるほど「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」、都市規模が小さくなるほど「地域の人たちが行う、地域の掃除に参加する」の行動意向が強い傾向にある。

今後、行おうと思っている環境保全行動は「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」(82%)「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」(78%)「ものは長く使えるよう大切に使う」(77%)が8割前後で上位を占めた。また、「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別する」(65%)も7割近く、さらに「鉛筆やノートは、環境に良いものを買う」(51%)「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」(48%)「家で花や木を育てる」(46%)も5割前後を示した。しかし、「地域の人たちが行う、地域の掃除に参加する」(36%)「地域の人たちが木や花を植える時には参加する」(23%)「家族や友人などと環境問題について話し合う」(20%)という行動意向は、3～5人に1人の割合にとどまっている。

前回調査と比べると、環境保全行動に対する今後の意向を持つ人の割合は全体的に減少している。中でも、「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」、「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別する」、「鉛筆やノートは、環境に良いものを買う」はの減少が顕著で4ポイントの低下となっている。

【図表 4-7】環境保全行動に対する今後の意向（全体）



* 平成14年度(前回)は「地域の人達が、地域の掃除や、木や花を植える時には参加する」で調査

どの項目の行動意向も小学生が中学生を上回っているが、特に「鉛筆やノートは、環境に良いものを買う」(58%)、「家で花や木を育てる」(52%)、「地域の人たちが行く、地域の掃除に参加する」(44%)の差が大きく、この3項目の比率は小学生が中学生を15~18ポイント上回っている。

性別にみると、すべての行動意向で女子が男子を上回っているが、特に「ものは長く使えるように大切に使う」(82%)、「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別する」(70%)、「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」(54%)、「家で花や木を育てる」(53%)での差が9~14ポイントと大きい。

都市規模別では、都市規模が大きくなるほど「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」の意向が強く、都市規模が小さくなるほど「地域の人たちが行く、地域の掃除に参加する」の意向が強い傾向にある。また、10万人未満で「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」(85%)、「家で花や木を育てる」(50%)の意向がやや強くなっている。

【図表 4-8】環境保全行動に対する今後の意向（学齢別、性別、都市規模別）

(%)

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す	81.8	82.6	80.8	78.9	85.2	81.9	80.4	85.5	81.9
使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める	77.5	79.2	75.2	75.4	79.8	74.3	76.2	85.0	76.1
ものは長く使えるように大切に使う	76.5	81.7	69.7	71.7	81.7	68.8	77.1	80.5	76.0
ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別する	64.9	69.1	59.4	60.5	69.5	58.2	67.9	66.8	61.3
鉛筆やノートは、環境に良いものを買う	51.0	58.3	41.3	49.4	52.9	48.9	53.9	46.2	49.7
買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける	48.0	51.1	43.9	42.0	54.3	54.0	48.6	45.9	45.8
家で花や木を育てる	45.8	52.3	37.3	38.8	53.1	46.8	46.4	50.4	41.6
地域の人たちが行く、地域の掃除に参加する	36.1	43.8	25.8	33.5	38.8	28.3	36.9	35.6	38.0
地域の人たちが木や花を植える時には参加する	22.5	27.3	16.1	21.1	23.9	16.5	24.2	21.9	22.3
家族や友人などと環境問題について話し合う	20.4	25.1	14.3	18.4	22.4	15.2	23.3	18.7	18.7
無回答	2.3	1.2	3.8	3.6	0.7	5.1	2.2	1.1	2.2

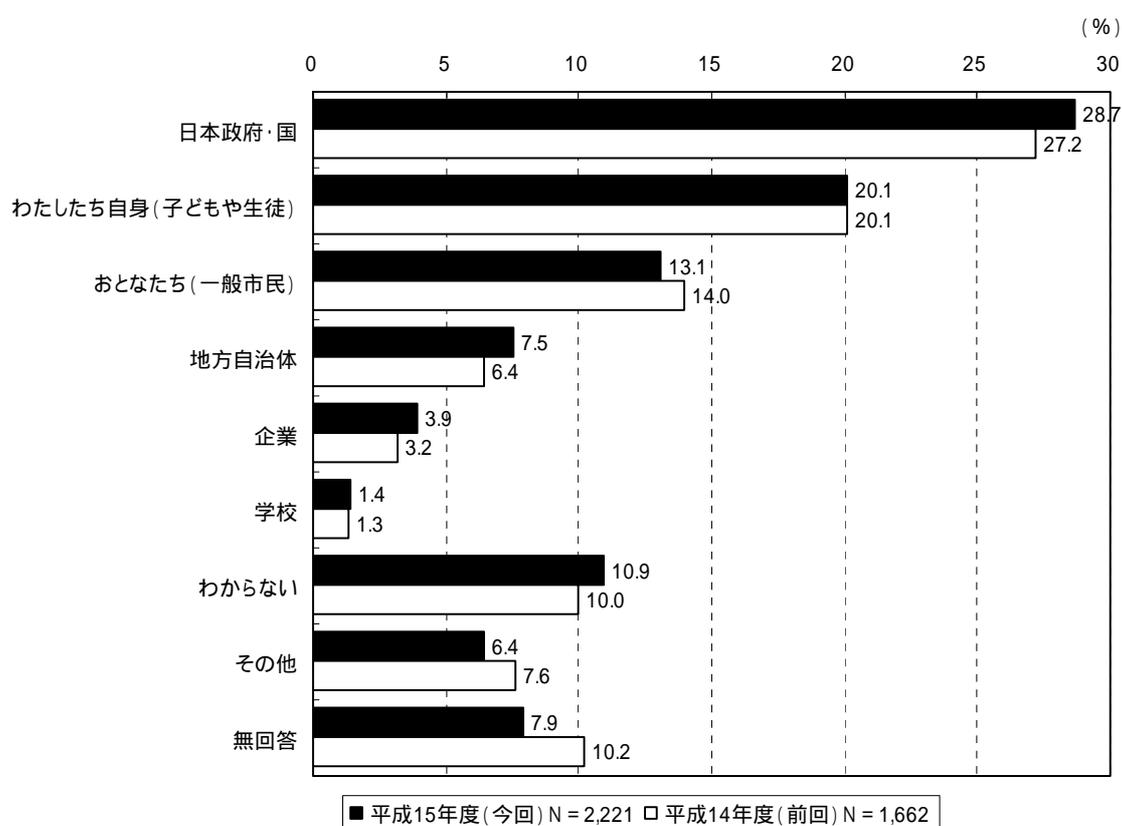
5 . 環境保全に重要な役割を担うもの（問8）

環境保全に重要な役割を担うものとしては、「日本政府・国」をあげた割合が29%で最も高い。中学生では「おとなたち（一般市民）」をあげた割合も18%とやや高い。

環境保全のために重要な役割を担うものを尋ねたところ、「日本政府・国」を選択した割合が29%で最も高い。これに次ぐのが「わたしたち自身(子どもや生徒)」(20%)であり、以下「おとなたち（一般市民）」(13%)、「地方自治体」(8%)の順となっている。

なお、こうした結果は前回調査とほとんど変化していない。

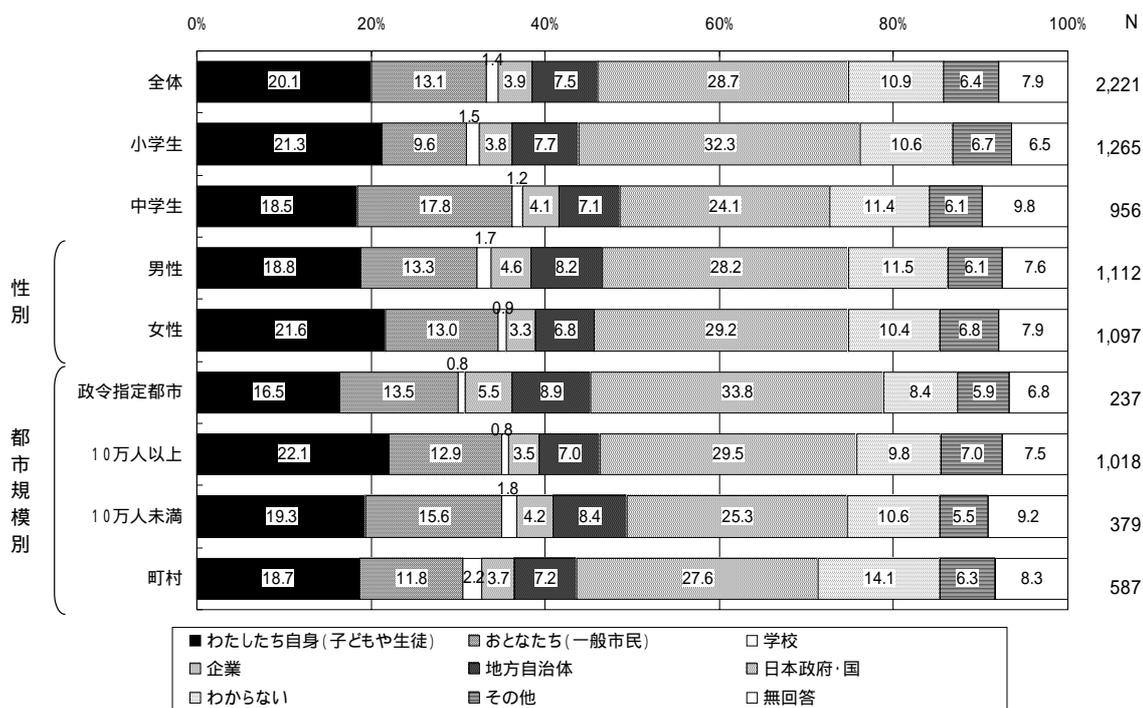
【図表 5-1】環境保全に重要な役割を担うもの（全体）



小学生は「日本政府・国」(32%)、中学生は「おとなたち(一般市民)」(18%)とする割合がやや高い。

また、性別による差は小さいが、都市規模別では政令指定都市で「日本政府・国」(34%)とする割合がやや高くなっている。

【図表 5-2】環境保全に重要な役割を担うもの(学齢別、性別、都市規模別)



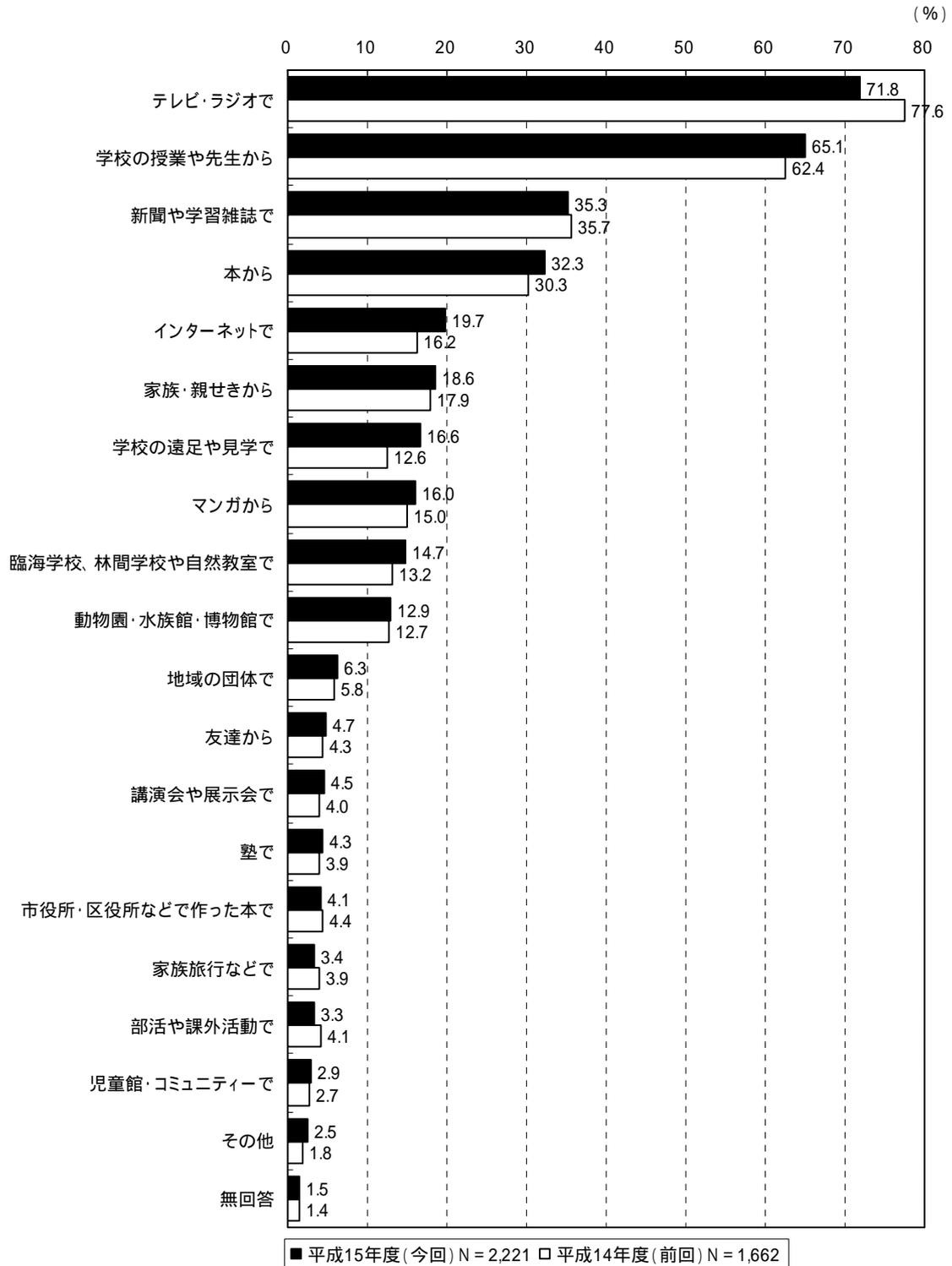
6 . 環境問題に関する情報の入手経路（問9）

環境問題に関する情報は、「テレビ・ラジオで」(72%)、「学校の授業や先生から」(65%)が2大情報源となっている。しかし、「テレビ・ラジオで」のウェイトは前回調査よりも6ポイント低下している。

環境問題に関する情報の入手経路は、「テレビ・ラジオで」(72%)と「学校の授業や先生から」(65%)が特に多く、2大情報源となっている。これらに加え、3～4割が「新聞や学習雑誌で」(35%)、「本から」(32%)、2割弱が「インターネットで」(20%)、「家族・親せきから」(19%)、「学校の遠足や見学で」(17%)、「マンガから」(16%)の情報を入手している。

こうした結果を前回調査と比べると、「テレビ・ラジオで」のウェイトが6ポイント低下している。

【図表 6-1】環境問題に関する情報の入手経路（複数回答）（全体）



小学生は中学生よりも「学校の授業や先生から」(72%)、「本から」(35%)、「インターネットで」(26%)、「家族・親せきから」、「学校の遠足や見学で」(各23%)、「マンガから」(19%)、「臨海学校、林間学校や自然教室で」(20%)、「動物園・水族館・博物館で」(18%)が多く、逆に中学生は小学生よりも「テレビ・ラジオで」(77%)が多い。

性別にみると、女子は男子よりも「学校の授業や先生から」(70%)の情報入手が多い。

都市規模別では、10万人未満で「臨海学校、林間学校や自然教室で」(21%)、町村部で「インターネットで」(23%)が全体に比べやや高くなっている。

【図表 6-2】環境問題に関する情報の入手経路（複数回答）（学齢別、性別、都市規模別）

	(%)								
	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
テレビ・ラジオで	71.8	68.1	76.7	71.7	72.1	73.8	70.9	71.5	72.7
学校の授業や先生から	65.1	72.1	55.8	60.4	70.0	56.1	68.0	67.8	61.8
新聞や学習雑誌で	35.3	35.3	35.3	34.9	35.7	35.9	34.9	31.7	38.2
本から	32.3	34.9	28.8	33.2	31.5	30.8	32.4	33.8	31.7
インターネットで	19.7	25.5	12.0	18.8	20.9	16.0	19.5	18.2	22.5
家族・親せきから	18.6	22.8	13.1	16.5	20.9	13.1	19.8	22.4	16.2
学校の遠足や見学で	16.6	23.4	7.5	15.7	17.5	10.1	17.8	16.4	17.2
マンガから	16.0	19.2	11.8	18.6	13.6	16.0	16.2	19.5	13.5
臨海学校、林間学校や自然教室で	14.7	20.0	7.6	14.9	14.5	10.1	16.9	20.8	8.7
動物園・水族館・博物館で	12.9	17.6	6.6	12.7	13.1	12.2	14.4	13.7	9.9
地域の団体で	6.3	7.3	5.1	7.4	5.4	5.1	7.0	6.1	6.0
友達から	4.7	6.3	2.6	5.8	3.7	6.8	4.2	5.5	4.3
講演会や展示会で	4.5	4.7	4.2	5.4	3.6	4.6	4.1	5.5	4.4
塾で	4.3	5.6	2.5	5.6	2.9	3.4	4.8	3.7	4.1
市役所・区役所などで作った本で	4.1	4.9	2.9	4.7	3.5	4.6	3.5	3.7	4.9
家族旅行などで	3.4	5.0	1.3	3.5	3.3	4.2	3.0	4.0	3.2
部活や課外活動で	3.3	3.5	3.0	4.0	2.5	4.2	2.8	1.8	4.8
児童館・コミュニティーで	2.9	4.0	1.5	2.7	3.2	3.0	3.1	3.2	2.4
その他	2.5	2.8	2.2	3.5	1.5	2.1	2.4	2.6	2.9
無回答	1.5	0.9	2.2	1.8	1.0	1.7	1.1	1.6	2.0

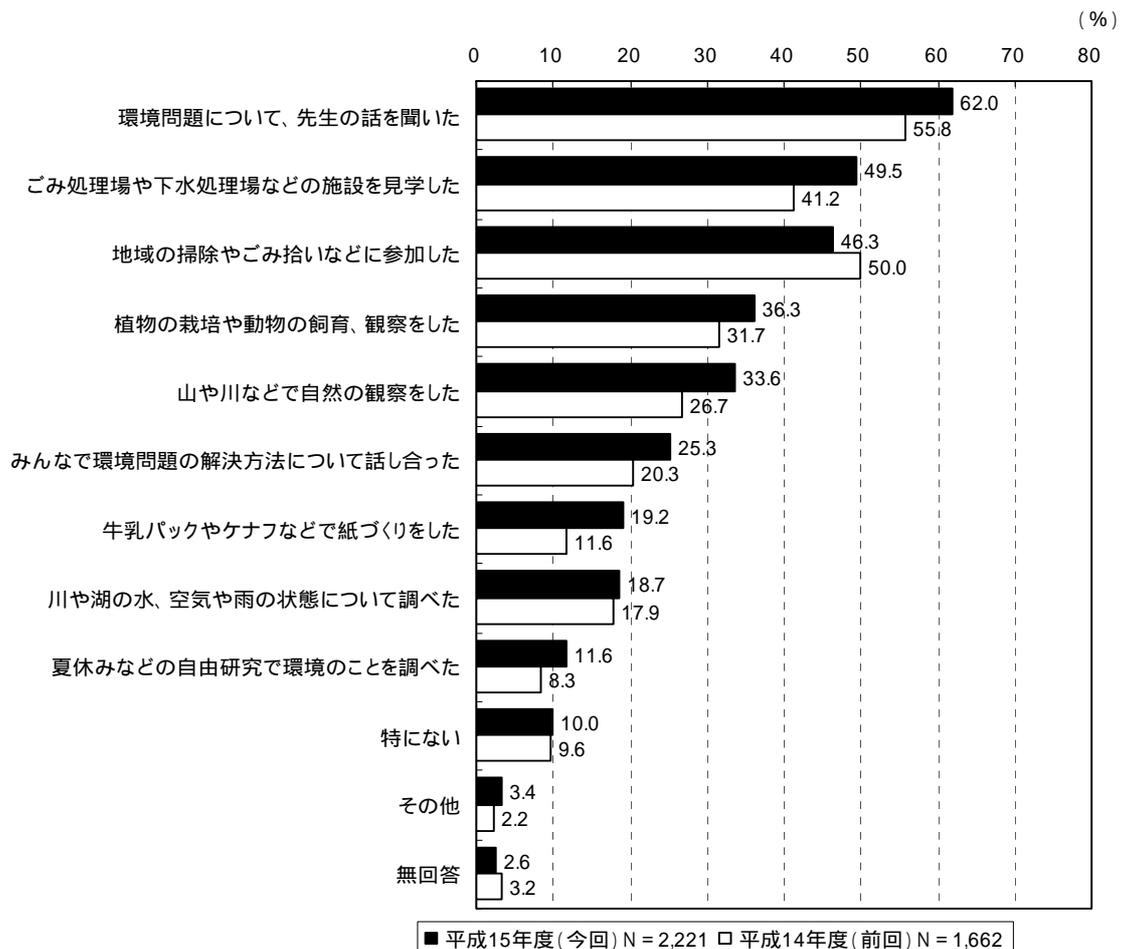
7. 学校における環境保全活動への参加経験（問10）

学校における環境保全活動への参加経験としては、「環境問題について、先生の話聞いた」（62%）、「ごみ処理施設や下水処理場などの施設を見学した」（50%）、「地域の掃除やごみ拾いなどに参加した」（46%）が約5～6割で上位を占める。また、前回調査に比べ、活動の範囲が広がっている様子がうかがえる。

環境保全活動への参加経験は「環境問題について、先生の話聞いた」が62%で最も高い。これに次ぐのは5割弱の「ごみ処理場や下水処理場などの施設を見学した」（50%）、「地域の掃除やごみ拾いなどに参加した」（46%）であり、以下「植物の栽培や動物の飼育、観察をした」（36%）、「山や川などで自然の観察をした」（34%）、「みんなで環境問題の解決方法について話し合った」（25%）が3～4割で続く。しかし、「牛乳パックやケナフなどで紙づくりをした」、「川や湖の水、空気や雨の状態について調べた」（各19%）、「夏休みなどの自由研究で環境のことを調べた」（12%）の参加経験は1～2割と低くなっている。

前回調査に比べると、「地域の掃除やごみ拾いなどに参加した」以外の活動は、いずれも参加経験が上昇しており、活動の範囲が広がっている様子がうかがえる。

【図表 7-1】学校における環境保全活動への参加経験（複数回答）（全体）



一般的に小学生の参加経験が中学生の参加経験を上回っているが、特に「ごみ処理場や下水処理場などの施設を見学した」「植物の栽培や動物の飼育、観察をした」「山や川などで自然の観察をした」「みんなで環境問題の解決方法について話し合った」での差が大きく、これらの小学生の参加経験率は中学生よりも25～33ポイント高くなっている。

性別では、一般的に女子の参加経験が男子の参加経験よりも高い。特に、「環境問題について、先生の話聞いた」「ごみ処理場や下水処理場などの施設を見学した」「植物の栽培や動物の飼育、観察をした」での差が大きく、これらの女子の参加率は男子よりも各7ポイント高くなっている。

都市規模別では10万人未満の参加経験率が一般的に高く、特に「環境問題について、先生の話聞いた」(75%)、「植物の栽培や動物の飼育、観察をした」(45%)、「山や川などで自然の観察をした」(46%)、「みんなで環境問題の解決方法について話し合った」(40%)が全体を9～15ポイント上回っている。

【図表7-2】学校における環境保全活動への参加経験（複数回答）
（学齢別、性別、都市規模別）

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
環境問題について、先生の話聞いた	62.0	70.1	51.4	58.7	65.7	51.9	63.2	75.2	55.7
ごみ処理場や下水処理場などの施設を見学した	49.5	63.6	31.0	46.3	53.1	30.8	53.7	54.4	46.7
地域の掃除やごみ拾いなどに参加した	46.3	45.5	47.3	43.3	49.3	43.9	43.2	54.1	47.5
植物の栽培や動物の飼育、観察をした	36.3	47.1	22.0	33.2	39.7	32.9	37.4	45.4	29.8
山や川などで自然の観察をした	33.6	45.6	17.7	32.0	35.3	27.4	34.2	45.6	27.3
みんなで環境問題の解決方法について話し合った	25.3	36.3	10.9	24.6	26.0	17.3	24.7	39.8	20.4
牛乳パックやケナフなどで紙づくりをした	19.2	21.7	15.9	17.3	21.3	23.2	24.3	15.0	11.6
川や湖の水、空気や雨の状態について調べた	18.7	23.4	12.6	18.3	19.2	19.4	18.8	19.5	17.9
夏休みなどの自由研究で環境のことを調べた	11.6	10.6	12.9	12.1	11.2	21.1	10.2	10.8	10.6
特にない	10.0	6.2	15.1	13.5	6.4	16.5	7.8	9.5	11.8
その他	3.4	4.1	2.5	2.7	4.2	13.1	2.5	0.8	2.9
無回答	2.6	0.6	5.1	3.1	1.9	3.8	3.0	2.1	1.5

8. 「こどもエコクラブ」の認知（問11）

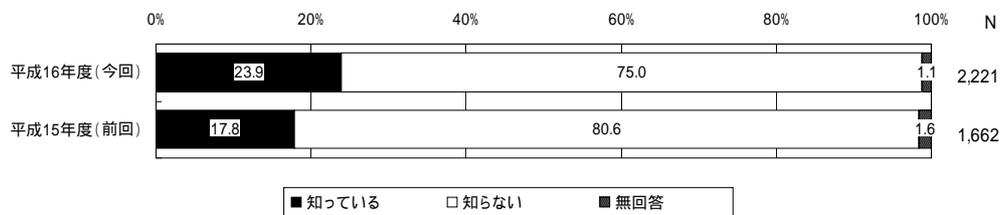
「こどもエコクラブ」の認知率は前回調査よりも6ポイント上昇し24%。小学生の認知率は32%と高い。

小中学生なら誰でも参加でき環境についての活動をする、「こどもエコクラブ」を「知っている」は24%で、前回調査よりも6ポイント上昇した。

小学生の認知率は32%で中学生（13%）よりも20ポイント高い。性別の認知度は男子（22%）、女子（26%）で女子の方がやや高い。

都市規模別にみると、10万人未満での認知率（27%）がやや高く、政令指定都市での認知率（14%）が低い。

【図表 8-1】「こどもエコクラブ」の認知（全体、時系列）



【図表 8-2】「こどもエコクラブ」の認知（学齢別、性別、都市規模別）

